

京都府内の小学校校庭に埋没 されていたネコ切断体の一例

吉田 圭太¹⁾、垣内 京香¹⁾、金谷 麻里杏¹⁾、川道 美枝子²⁾、浅川 満彦¹⁾

1) 酪農学園大学獣医学類 / 〒 069-8501 江別市文京台緑町 582

2) 関西野生生物研究所 / 〒 605-0981 京都市東山区本町 17 丁目 354

■ 要約

2016年10月、京都府南部某市小学校校庭で発見されたネコ後半部の剖検を実施したところ、少なくとも前半部とは人為的に切断されたものであることが判った。しかし、その他の情報は限られ、その死因などの詳細は不明であった。

[キーワード: ネコ、剖検、小学校]

..... ヒトと動物の関係学会誌, Vol. 48 81 - 83 (2017)

Postmortem Examination of a Feline Carcass Found from a Primary School in Kyoto Prefecture, Japan

Keita YOSHIDA¹⁾, Kyoka KAKIUCHI¹⁾, Maria KANAYA¹⁾, Mieko KAWAMICHI²⁾, Mitsuhiko ASAKAWA¹⁾

1) School of Veterinary Medicine, Rakuno Gakuen University / 582, Midori-machi, Bunkyo-dai, Ebetsu-shi, Hokkaido 069-8501, Japan

2) Kansai Wildlife Research Association / 354, 17-chome, Hon-machi, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0981, Japan

■ Summary

A damaged feline carcass was found from a primary school in Kyoto Prefecture, Japan, on October, 2016, and postmortem examination was performed for the body. It seems that the body was cut by an artificial factor, but other details were not known.

[Key Word : Cat, postmortem examination, primary school]

..... Japan. J.Hum. Anim. Relat, Vol. 48 81-83 (2017)

■ 1. はじめに

イヌやネコなどに対する人為的な殺傷行為が一般社会に与える影響は著しいと考えられる[1-5]。一方、このような事象を明確な犯罪として認知あるいは立件出来る科学的根拠となる分野が獣医学では発展途上にある[6,7]。日本でも、著者の一人、浅川[8]が腐敗変性した動物遺骸の死因分析において、新鮮な死体を中心に対象にした従来の獣医病理学的アプローチでは限界があり、医学分野で確立している法医学のような分野を希求していた。このような要請から、柳井[9]が「獣医法医病理学」を提案するなど、日本でもようやく兆しが認められはじめている。しかし、このような現状であるため、関連事例の蓄積は絶対的に不足している。そこで、知見の一端として以下事例を供覧したい。

■ 2. 事例概要

2016年10月10日午前10時35分頃、京都府南部某市小学校校庭の築山から脚が露出した状態で埋められていた動物が発見された。第一発見者は、当日開催の地元幼稚園運動会で活動をしていた幼児であった。運動会の終了後、警察に連絡され、回収された。なお、この運動会はこの前日実施予定であったが、雨天のためその日に順延された。同校教頭の証言では同年10月9日夕刻の校庭巡回時には校庭に異常は無かったということであった。

死体を回収した警察署から、今回の著者の一人、川道を通し、切断原因が人為的なものか、もしくは動物によるものかを調査する鑑定依頼を受けた。社会貢献の一環として警察から事件に関わると考えられる事案についても依頼されてきたことから[10,11]、今回も協力をさせて頂いた。

■ 3. 肉眼観察

依頼者によると酪農学園大学野生動物医学センター(WAMC)に到着するまで、死体はビニール袋に密閉された状態で約4℃にて冷蔵されていた(図1)。同年10月13日、WAMC入院・サンプリング室にて剖検された。



図1 WAMC到着時点の試料の状態

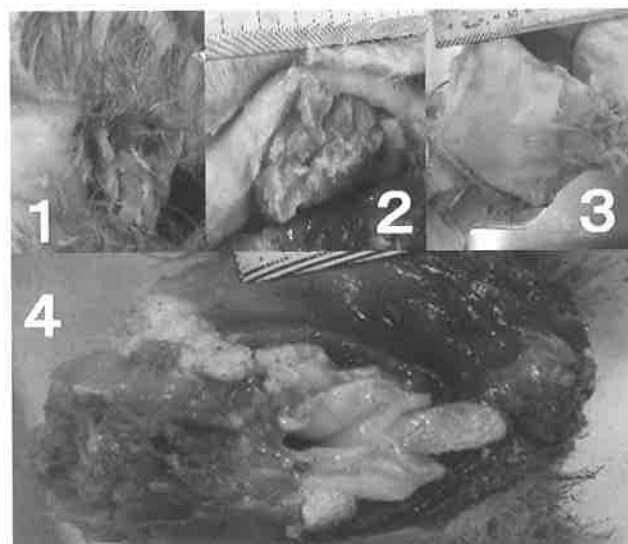


図2 WAMCに到着した時点の試料

外貌および生殖器から剖検対象材料(WAMC登録番号AS 16172)はネコ、雌、若齢、胸椎と腰椎との間で切断された後半部(骨盤、両後肢および尾含む)で、胸部から前半身は欠如していた。脚の部位を除き、土中に埋没されていたということであったが、WAMC送付時の材料に土砂付着が認められなかった。回収直後、水道水などで洗浄されたものと考えられたが、この材料が送られてきたビニール袋および体毛は乾いており、洗浄されたとしても、湿性状態ではなかった。

特徴的な肉眼所見として、概して皮膚および脊椎骨間の離断面は直線的であり、動物による摂食などで生ずる不定形なものではなかった(図2-1および2)。また、腰背側体幹筋が直上の皮膚から尾部まで剥皮されていたこと(図2-3)、腹腔内の諸臓器・消化管は子宮および膀胱を除き欠如していたこと、膀胱内に尿貯留が認められなかったこと(図2-4)、子宮に胎盤痕は認められなかったこと、筋肉および残余した子宮・膀胱は新鮮な状態であり、腐敗・変性傾向が示されなかったことなども記録された。

このような死体で一般に認められるとされるハエ類幼虫や血液・消化管内容物などの付着も認められなかったが、これは洗浄により除去された可能性が高かった。

■ 4. 結論

依頼項目の切断が人為的か非人為的については、皮膚・脊椎骨間離断面(創縁あるいは面)の形状が整であることから、明らかに前者であり、特に、用いた器具は鋏や大型の刃物であったと考えられる。この切断がいつ、個体がどのような状態(生きている状態で切断されたのか、それとも死体の状態で切断されたのか、もし、仮に死体だった場合、切断は冷凍保存の前に行なわれたのか後に行なわれたのか、さら

に、死因は何だったのかなど)で行われたかは、序文で述べたように法医学的な手法が日本の獣医学で確立されていない現状 [8,9] では明確に答えるのは難しい。

また、法医学の領域では双翅目幼虫の種構成に基づいて死後の時間推定を行うことが普通であるが [12]、関係者が気の毒に思ったのか洗浄および拭き取りが行われていた。獣医学でも法医学的な分野をしっかりと確立し、それに伴い適切な死体の取り扱い方などの啓発を行うことで、動物死体を適切に保存することも一般に浸透することになろう。本稿がそのような将来の新たな分野設立契機になれば幸いである。なお、本検体子宮・膀胱・筋肉の一部は、現在、WAMCにて-20℃にて冷凍保存され、薬物あるいは疾病などによる死亡原因の解析に備えている。

以上のように、本事例に関しては獣医学を基盤に論じてきたが、今回、死体の発見場所が小学校内で、多数の幼稚園児の目にも触れられるような形状で遺棄された点は、犯罪心理学的な異常性を反映するものと想像される。すなわち、潜在的犯罪面から、現地の園児・児童の安全を守るためにも看過できない事例であったことも忘れてはならない。

最後に、本論文について極めて有益なコメントを寄せられた2名の匿名査読者に深謝したい。

■ 引用文献

1. 読売新聞. 大和西大寺駅周辺 野良猫不審死相次ぐ. Yomiuri Online <http://www.yomiuri.co.jp/local/nara/news/20171124-OYTNT50383.html>; 2017: 2017年11月28日閲覧.
2. 伊藤 稔. 妊娠した野犬が不審死? 動物愛護法違反の疑いも. 朝日新聞2016年9月9日版 <https://sippolife.jp/article/2016090700004.html>; 2016: 2017年11月28日閲覧.
3. 真下信幸. 広島・鞆の浦 楽園のネコ受難トラバサミ被害相次ぐ. 毎日新聞2017年5月19日版 <http://mainichi.jp/articles/20170519/k00/00e/040/290000c>; 2017: 2017年11月28日閲覧.
4. 日本経済新聞. 猫不審死、横浜で相次ぐ. 日本経済新聞夕刊2015年11月12日版 <https://www.nikkei.com/article/DGKKZO93906730S5A111C1CC0000/>; 2015: 2017年11月28日閲覧.
5. 環境省. 動物の遺棄・虐待事例一覧. https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/h2203/03.; 2017年11月28日閲覧.
6. Merck M (ed.). *Veterinary Forensics: Animal Cruelty Investigations*, 2nd ed. USA: Wiley-Blackwell; 2012.
7. Munro R, Munro HMC. *Animal Abuse and Unlawful Killing: Forensic Veterinary Pathology*. Amsterdam: Elsevier Ltd; 2008.
8. 浅川満彦. 我が国の獣医学にも法医学に相当するような分野が絶対に必要! -鳥騒動の現場から. *Zoo and Wildlife News* (野生動物医学会ニューズレター); 2006: 22: 46-53.
9. 柳井徳磨. 獣医法医学病理学 *Veterinary Forensic Pathology* の現状と課題 -世界の獣医法医学病理学 (欧米を中心に) および我が国の現状. 第160回日本獣医学会学術集会講演要旨集. 鹿児島: 鹿児島大学; 2017: 196.
10. 近本翔太, 浅川満彦. 酪農学園大学野生動物医学センター WAMCに依頼された車輻付着の獣類体毛鑑定と示唆された野生動物交通事故に関わる問題点. 第16回「野生動物と交通」研究発表会発表論文集. 札幌: エコネットワーク; 2017: 41-44.
11. 高木佑基, 浅川満彦. 獣毛鑑定の一例. *森林保護*; 2016: 341: 6-7.
12. 千種雄一, 一杉正仁, 黒須 明, 木戸雅人, 倉橋 弘, 林 利彦, 金杉隆雄, 桐木雅史, 加藤尚子, 徳留省悟, 松田 肇. 法医解剖で検出された双翅目昆虫について. *衛生動物*; 2006: 57: 136.